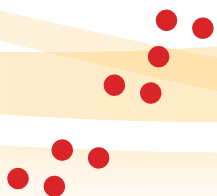




Interactive Training in Communication-Japan

<http://www.itcjr.jp>

III Volume 37
July 2019



目 次

Table of Contents

ITC-J 第 37 期のテーマ	1	ITC-J Theme 2018-2019
ITC-J 第 37 期会長メッセージ	2	ITC-J President's Message 2018-2019
役員からのメッセージ	3	Messages from the Officers
年次大会特集	4 ~ 13	Features to the Annual Conference
役員会年次報告	14 ~ 15	Annual Report
会則修正案について	15	Amendments to the Bylaws
カウンスル「今期を振り返って」	16 ~ 17	Looking Back this term by each Council
シンポジウム報告	18 ~ 19	Reports on the Symposium
言の葉クラブ認証	20	Certification of Kotonoha Club
記念例会	21	Memorial Meetings
ウェブサイトの変遷	22	Transition of ITC-J Web-site
会報誌・大会冊子表紙一覧	23	Catalogue of Covers on ITC-J Magazines, Booklets
事務局設立と業務の変遷を振り返って	24 ~ 25	Transition of ITC-J Office
教育資料一覧表	26	Catalogue of Educational Materials
補正予算書	27	Revised Budget
追悼文	28	Memorial Words
ログイン方法・編集後記		Way to Log in, Editor's postscript
ITC-J 宣誓・ITC-J 声明文		ITC-J Pledge & Mission Statement

ITC-J 第 37 期 テーマ

2018 – 2019 ITC-J Theme

継承と創造

Succeed and Create



“ 継承と創造 ”

ITC-J第37期会長 加藤 正枝

「識るを楽しむ」の大会テーマのもと、岡山大で開催いたしましたITC-J第37期年次大会は、恙なく終了いたしました。皆様には充実した時間をお過ごしいただけましたでしょうか？ 変化に富んだ教育セッションに参加し、旧交を温め、或いは新しい出会いの喜びを感じたりと、年次大会でしか味わえない時間となりましたならば、この上ない喜びでございます。

今年年次大会では会長行進を復活させました。ITC-J旗と8カウンスル旗の下、1年間会長職をお務め下さいました各カウンスル、クラブの会長をご紹介し、手拍子で終始した行進は会場が一体となるよい機会となりました。

スピーチコンテストを日英一つのコンテストとして行いました。スピーカーは聴衆というよい聴き手の反応や応援を受けていることを間近に感じ取れ、聴衆としての会員からは英語も日本語も同日に聴くことができ、よかったという感想をいただきました。

そして、皆勤賞表彰を初めて行いました。20年皆勤、30年皆勤、そしてなんと、40年も皆勤の会員がいらっしゃいました・・・素晴らしい方々を知りました。会員の皆様の今後の意欲へ繋がったのではと思います。

今期はITC-Jとなり2年目でした。いろいろなことに対応する度に、私たちは旧ITCの国際に守られ、多くの学びの恩恵を受けていたことに今更ながら気づき、ITCの国際という組織に改めて感謝した1年でもありました。

そして、私たちはこの組織の学びの方法、つまり「繰り返し学ぶ」中で着実に力を付けていたのだと実感いたしました。それ故、ITCが解散した後、直ちに新組織の立ち上げを成就させた日本の会員の確かさにも思い至ることができました。それは繰り返しの学びに忠実であり、真摯であったからこそ思うのです。

「継承と創造」のテーマを掲げた今期1年を振り返り、会員の皆様からいただいたご意見やご感想、カウンスル会長会での意見交換、各委員会の活動など、すべてが今期の成果に寄与していることに胸が熱くなる思いです。

ITC-Jの学びは永遠です。今期は長い歴史の中のほんの一ページです。これからも会員相互が手を携えて真摯な学びの軌跡を残して参りましょう。一年間の皆様のご協力、ご厚情に心から感謝申し上げます。有難うございました。

役員からのメッセージ

皆様、有難うございました

第一副会長／プログラム・教育委員長 豊川三千代

ITC-J第37期年次大会プログラムは、皆様のおかげを持ちまして恙なく終えることが出来ました事大変嬉しく感謝申し上げます。

有森裕子氏の講演は多くの方々から称賛のお声を頂きました。教育セッションについては多岐に亘る分野の企画でありましたので教育・プログラムとして効果的であったのではと推察致しております。思い起こせば10か月前、有森裕子氏の紹介を頂き、教育セッション講師には会員や委員会メンバーからの紹介があり、委員会のたび毎に教育セッションの目的を念頭に置き、全体としての学びの形を整えることができました。

大会冊子表紙にも、委員会で知恵を出し合い、作家による表紙絵ならびに裏表紙と致しました。柔らかな色使いやモチーフは昔懐かしく、そして心和む冊子となりますよう配慮致しました。

作成段階では、必死で取り組んでまいりましたが、今から思えば楽しく有意義な時間を共有できたことに感謝の思いでいっぱいです。会員の皆様のお力添えと委員の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

皆様、ありがとうございました。

今期を振りかえって

第二副会長／会員委員長 西阪 宣枝

新組織ITC-Jは、今期8カウンスル63クラブ913名でスタートし、6月30日現在8カウンスル64クラブ、939名となりました。会員減少傾向の中、カウンスルNo.6に「言の葉クラブ」の誕生はうれしいニュースです。

継続して支援しているひがし広島クラブ主催の「小中学生スピーチコンテスト」、カウンスルNo.3主催の「高校生スピーチコンテスト」は地域での広報、会員獲得に貢献しています。また京都にて、「持てる力を、社会に！」のテーマのもとシンポジウムを開催しました。講師に京都女子大学学長 林忠行氏、パネリストに京都産業大学名誉教授 筒井清子氏、朗読講師 泉浩子氏、高山敦子次期会長を、コーディネーターに奈良新聞社社長 甘利治夫氏をお迎えしての開催で、272名の参加を得、新入会員獲得にもつながりました。

年次大会の晩餐会では長年の努力を表し例会40年皆勤者をはじめ、継続会員、30名以上維持クラブの表彰をいたしました。多くの皆様のご協力に感謝いたします。有難うございました。

ITC-J第37期年次大会特集

2019.7.1～7.2
ホテルグランヴィア岡山



ITC-J第37期会長
加藤 正枝

派遣員説明会



議会法規役員
岡崎 祥子



開会式

会長行進





近本節子コーディネーター、
佐藤千恵／原順子コ・コーディネーター



入場行進進行
三木 千春



ITC-J宣誓
後藤 英子



歓迎あいさつ
近本 節子



会員代表挨拶
船橋 梨恵



インスピレーション
加藤 裕子



基調演説

ITC という国際組織は一昨年度その歴史に幕を閉じ、日本は昨年 ITC-J という独自の組織として新しい歩みを始めました。それは私たち会員がこの組織の学びと会員同士の絆を大切に思っているからに他なりません。日本独自の組織として活動するために、変えなければならないことと変わってはいけないことを見極め、私たちは何をすればよいのかを考えて進まなければなりません。私たちが今まで積み重ねてきた学びの経験を大切にして、さらに学び、磨き合いながら ITC-J をより良い組織にしていきたいと念じながらの1年でした。



ITC-J第37期会長
加藤 正枝

今期役員会では次の3つのことに取り組みました。

1. ITC-J マスターマニュアル・ITC-J 議事法マニュアルの作成
2. ウェブサイトの充実と活用の奨め
3. 組織運営の再考

1. 「マスターマニュアル」は私たちの教科書です。昨年度組織検討委員会での検討事項に挙がっていたことから、一年をかけ検討いたしました。4月に印刷製本し、配布。ウェブサイトにも掲載しました。

マスターマニュアル作成の途中から、「議事法マニュアル」の作成も進めました。5月に製本・配布し、ウェブサイトにも掲載しました。

2. 私たちの組織はウェブサイトを持っています。日本中の会員が等しく見ることができ、等しく活用できるのはウェブサイトです。スマートフォンを用いての利用にも対応しています。今期は種々大切な情報をウェブサイトに掲載してまいりました。そして、今期は会報誌と大会冊子の内容を第1号から現在に至るまで掲載いたしました。表紙が並んだ画面のページは圧巻です。表紙の下の青字のナンバーをクリックしていただきましたらどれでも読むことができます。諸先輩方の ITC に対する思いと学びと深い愛情を感じます。是非ご一読ください。「議事法クイズ」はウェブサイトのみの掲載としました。その他、クラブで活用いただける教育資料も昨年度に引き続き教育資料委員会で作成され、ウェブサイトに掲載しております。どうぞご活用ください。

3. 以下の3点の取り組みを主に行いました。

- 1 シンポジウムを開催しました。会員委員会が中心となり、初めての企画でした。多くの参加者があり、入会者もありました。今後も組織の認知度を高め、会員の増強につとめることが出来ればと存じます。
- 2 危機管理ガイドラインの作成
思いがけない災害に対応する危機管理ガイドラインについてクラブ、カウンスルで話し合い作成いただきました。各カウンスルのガイドラインはウェブサイトに掲載しております。
- 3 事務局のスリム化を検討、試行しました。
前年度組織検討委員会で検討されてきた事務局のスリム化について引き続き、業務について一つ一つ検討しながら、分担をし、簡便化を図り、今後も継続できる形を模索し、新しい方法を試行してまいりました。

また、今期最大の喜ばしいニュースがございました。新クラブ、「言の葉クラブ」がNo.6に誕生したことです。新しい風が吹き始めたのを感じます。大切に見守り、大きく育ててほしいと願っております。

「令和」という新しい時代の始まりとともに、ITC-Jの新たな一歩がまた始まりました。名古屋にITCの種が蒔かれてから来年で70年です。先輩の皆様が、重ね、培われた伝統や礎を大切にしながら、令和の時代も生き生きと進んでまいりますようにと願っております。

本大会が、大会テーマ「識るを楽しむ」のもと、学びを通して、会員相互の理解・友情さらには絆が深まります事を念じながら基調演説を終わります。

大会1日目 / 議事会議



大会規則採択



大会プログラム採択



派遣員資格確認報告



年次報告



議事録承認委員



審 議 役員選挙結果

次期会長：海老原あかね

第一副会長：河内美音子 第二副会長：清水典子

書記：山口久美子 会計：落合友紀子

指名委員選挙結果

◎小田和子・土川邦子・川崎邦子・布野泰子・高階睦子



1日目の昼食

講演

よろこびを力に…

講師 有森 裕子氏



プログラムリーダー
村山 紀子

教育セッション



A 概観 岡山の歴史と文化
日本美術史家 谷一 尚氏



プログラムリーダー
小八木利子



B クラシックよもやま話
指揮者 藤川 敏男氏



プログラムリーダー
横山 末子



英語セッション
C 歳をとって勉強するわけ
通訳・元アナウンサー 伊藤 妙子氏



プログラムリーダー
杉谷 和代



D 今朝の鏡に映るあなた！
昨日より素敵に～
リンパ健康セラピスト 野口由祐子氏



プログラムリーダー
谷間のり子



なるほど！経済講座
E 「仮想通貨：入門編」
経済研究家 石川 恵悟
(名城・東葛クラブ)



プログラムリーダー
藤原 雅子



F 「煎茶」をのぞいてみる
茶道家 馬田 乙世
(岡山あくらクラブ)



プログラムリーダー
吉田 直美



晩餐会



司会
田中 和美



お祝いメッセージ披露
野口美智枝



お祝辞
岡山県知事 伊原木隆太様



お祝辞
岡山市長 大森雅夫様



乾杯
倉敷市長 伊東香織様



役員就任式



インストラングオフィサー
Margaret Sutherland
通訳: 杉谷和代
アシスタント: 佐伯省吾



就任挨拶
高山敦子次期会長



新任役員



退任役員

表彰



エンターテインメント



ナターシャ・グジー氏

大会2日目 / 議事会議



第一副会長



第二副会長



会計



編集者



事務局長



J-CLO



スピーチコンテスト

第1部 英語の部



出場者



1位:和爾 玲子
(No.1 千種)



スピーチコンテスト委員長
若林裕子

第2部 日本語の部



出場者



1位:杉本紀美子
(No.3 西宮)

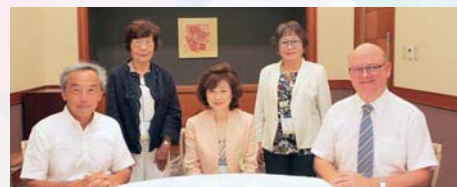


プログラムリーダー
竹内ひとみ

第1部 英語の部

順位	氏名 (カウンスル・クラブ名)	Subject	Title
1位	和爾玲子 (No.1 千種)	Aging	Challenge to Live Long
2位	川井恵子 (No.8 横浜)	Hazy	Life blurred with mist
3位	藤木桂子 (No.2 イースト神戸)	Decision Making	Home Sweet Home

審査員: 谷一尚氏 Stephen Ryan氏 佐野千賀子



審査員と委員長



計時係

第2部 日本語の部

順位	氏名 (カウンスル・クラブ名)	論題	題目
1位	杉本紀美子 (No.3 西宮)	言葉	賜物
2位	黒田栄子 (No.5 豊中)	教育	言葉のない世界
3位	大野三恵子 (No.2 京都)	旅	想像してごらん

審査員: 谷一尚氏 中島有香氏 石破佳子



審査員



計時係



2日目の昼食

閉会式



次回大会案内 大会テーマ「友情の架け橋」 2020.6.11～6.12 神戸ポートピアホテル



謝辞



退任・閉会挨拶



クロージングソート
西田富美子



古琴：蔡愛琴様

登録者数報告

	会 員	ゲスト		合計 (会員・ゲスト)
		来賓	一般ゲスト	
7月1日	431	7	14	452
晩餐会	377	8	17	402
7月2日	434	3	10	447
総 数	461	14	26	501



カウンスル運営研修会(CMT)

分科会リーダー：出席者87名 9部門

会 長：加藤 正枝

第一副会長：豊川三千代

第二副会長：西阪 宣枝

書 記：野口美智枝

会 計：柴田久実子

議会議法役員：岡崎 祥子

編 集 者：秦野 順子

会則・決議委員会：稲葉由利子

スピーチコンテスト委員会：若林 裕子



募金のお礼

西日本豪雨被害への募金にご協力いただき、
ありがとうございます。

募金箱への募金は47,077円となりました。

被災地と被災なさった方へ

お届けいたします。

ご厚情に感謝いたします。

役員会から

ITC-J第37期役員会年次報告

(2018年8月1日～2019年7月31日)

ITC-J第37期役員会は、テーマ「継承と創造 Succeed and Create」のもと

1. 組織運営の再考とウェブサイトの活用

2. 会員の支援と増強

3. 各レベルのプログラム・教育の支援と充実

以上3つの目標の達成を目指して、以下の活動を行った。

1. クラブ数・会員数の状況

ITC-Jは今期8カウンスル63クラブ、会員数913名でスタートした。

今期、カウンスルNo.6に「言の葉クラブ」が誕生し、6月30日現在、64クラブ、会員数939名、新入会員37名である。

2. 研修会報告

- ① カウンスル会長会は2018年12月7日大阪市にて行った。
- ② カウンスル運営研修会(CMT)は、2019年7月2日ホテルグランヴィア岡山に於いて9部門で開催される。

3. 主たる活動

- ① 役員会は任命役員の議会法規役員、編集者、事務局長も出席し、現在までに14回開催した。
- ② 役員は、8カウンスルの第1回会合に公式訪問を行い、ITC-Jの方針を伝えた。
- ③ ITC-J会報は年3回発行し、全会員に第1号、第2号を配布した。
第3号は7月23日に発行を予定している。
- ④ ITC-Jメールは年4回を予定とし、現在までに3回配信した。
- ⑤ 特別委員会として、今期新たにマニュアル検討委員会を設置し、マスターマニュアルについて検討し監修委員会監修の後、役員会は4月に「ITC-Jマスターマニュアル」として発行した。併せて、これをウェブサイトにも掲載した。
- ⑥ 役員会では、「ITC-J議事法マニュアル」を新たに作成し、これを冊子として発行した。併せてウェブサイトにも掲載した。
- ⑦ 役員会は、「議事法クイズ」を作成し、ウェブサイトに掲載した。
- ⑧ ウェブサイト委員会の全面協力により、日本リージョン第1期から現在までの会報誌と大会冊子の内容をウェブサイトに掲載した。

- ⑨ 販売する物品は、会員ピン・表彰状・定形横封筒・ロゴシールの4種類とし、販売及び管理は各カウンスルが担当する事とした。
- ⑩ 会員番号及びウェブサイトのパスワードの保管は、クラブ会計が担当する事とし、この任務を継続中である。
- ⑪ ITC-J への送金の流れを会費以外はクラブ会計からカウンスル会計へ、カウンスル会計から ITC-J 会計へ送金することとし、収入と支出を ITC-J 会計に一本化した。
- ⑫ 危機管理意識の向上を目的として、カウンスルとクラブにガイドラインの作成を依頼し、カウンスルのガイドラインをウェブサイトに掲載した。
- ⑬ 「持てる力を社会に！」のテーマのもと、2019年3月4日京都市に於いてシンポジウムを開催した。
- ⑭ 今期のスピーチコンテストは英語部門と日本語部門を一つのコンテストとして行う。
- ⑮ 教育資料委員会はワークショップ資料他を作成し、ウェブサイトに掲載した。
- ⑯ 所属クラブの会長報告書については各カウンスル会長がまとめ、ITC-J 会長に提出する形式を取った。年間を通して2回の報告書を受理した。
- ⑰ 伝達事項としての JCLO 通信を23回送信した。

ITC-J 第37期役員会は、今期テーマ「継承と創造 Succeed and Create」のもと、目的達成のために鋭意努力し、創意工夫を重ねた一年であった。

尚、ITC-J 第37期年次大会は、2019年7月1日、2日の2日間の日程で、大会テーマ「識るを楽しむ」のもと、ホテルグランヴィア岡山で開催中である。

以上

ITC-J 第37期書記 野口美智枝
2019年7月1日採択



マスターマニュアル

議事法マニュアル

ITC-J 会則修正案審議

修正案1は修正動議1件、「委員会に付託」の動議が提出されたが、すべて否決された。

修正案2は「委員会に付託」の動議が提出された。時間延長動議が出され、延長されたが、時間切れとなった。

今期を振り返って

- ① 教育・プログラムの効果・反省について(会長として) ② 会員状況について

カウンスルNo.1

会長 加藤 裕子

- ① 年間のプログラムテーマを「来し方行くすゑ」とし第1回会合では、竹村紀年子様をお迎えして、短歌を通して生き方を学びました。講師の話を通して、私達のこれからを考える良い機会になりました。第3回では、食を通しての時代の変遷を学ぶ予定です。(会合は7月9日の予定)
- ② 会員数は169名でスタートしました。少ない人数のクラブも、プログラム、お役を工夫して充実した活動をしています。今期は新入会員が5名あり、来期に期待したいと思います。

カウンスルNo.2

会長 興梠 美和

- ① 第1回会合のクラブ自慢は事前の準備に時間がかかりましたが、それもまたクラブ会員同士の交流につながり、見る側も行う側も楽しかったと好評でした。また医療に関する講演も興味のあることだったので真剣に聞くことができました。スピーチコンテストは簡素でしたが、審査員の自己紹介を含めた講評が行われ、とてもユニークでした。また講演もあり、参加者は充実した時間を過ごせたと好評でした。もっと外部に声をかけてITC-Jを知らない方々に来ていただければ広報の役割も果たせたのではないかと思われその点が残念でした。
- ② 会員状況にはあまり大きな変化はありません。

カウンスルNo.3

会長 後藤 英子

- ① 第3回会合では所属8クラブそれぞれが会員の豊かな才能と個性で考え、一致団結して「魅力あるリサーチ」のプレゼンテーションを行いました。まさに今期活動方針である「人を大切に、多様性を重んじる」「それぞれの個性、それぞれの力をチームワークに変えて活動する」「笑顔でITC-Jを楽しむ」そのものであり、カウンスル会合だからこそできる活気溢れる楽しいプログラムとなりました。また、「さらにクラブの団結力が強まった」との声も聞け、嬉しく思っております。カウンスルNo.3という素晴らしいチームの会長として幸せな一年でした。
- ② 今後、少しでも会員が増えることを期待しています。

カウンスルNo.4

会長 金子三屋子

- ① 第3回会合で、クラブ自慢を、9クラブが1.自己啓発 2.コミュニケーション 3.評価 4.リーダーシップと四つの柱に分類をし、企画書の提出から参加していただきました。発表順も分類が重ならないように留意しました。最後の発表、安芸クラブは、会長テーマ「自由にはばたけ希望をもって」についてスピーチし、これからの人生にはばたいて、希望を持ちたいと力強いアピールとなり、会場は盛り上がりました。
- ② 期首159名からの出発でしたが、期末には170名と会員数は増加しました。

カウンスルNo.5

会 長 田中 和美

- ① カウンスルNo.5は今期2回会合としました。第1回は30周年記念会合で周年行事に相応しい祝舞として「仕舞」、プログラムは大阪市生野区長による講演、21期から30期までの会長ショートスピーチを行いました。第2回はスピーチコンテストが主となった会合でした。出席者全員が参加できるワークショップのようなプログラムが理想ですが、今期は難しかったです。
- ② 会員状況については、会員増を目標にしていますが、思うようには新入会員が集まりませんでした。しかしながら、一部のクラブでは若い新入会員が数名ありました。男性会員をも視野に入れて次期に期待したいと思います。

カウンスルNo.6

会 長 西田富美子

- ① 「随所に主となる」～言葉にして共有する～テーマのもと、少数会員で構成するカウンスルNo.6はカウンスル会合プログラム構成に対し(1)参加型であること(企画書提出段階から)(2)基本に沿っていること(ITC-Jの学びの目的にそっている)(3)会員個々の成長の場であることを目指し臨みました。結果は素晴らしかったとの評価を得、会員一同達成感に満たされ喜びとなりました。目標に真摯に向かえたと信じています。
- ② 会員状況ですが歴史ある2クラブ解散(よくよく考えられてのことと報告を受けています)、1クラブ増設の現実です。寂しいことですが先を訪うことからカウンスルNo.6会友として絆を繋げていきたいと会友の承諾を得ています。前向きに進んでまいります。

カウンスルNo.7

会 長 竹内ひとみ

- ① どんなプログラムを提供しようかと役員どうし意気込んでいた日々から、早一年となります。3回の会合では、「言葉の魅力」「言葉の力」「言葉のキャッチボール」とテーマを掲げ、社会で活躍する方をお招きし、コミュニケーション技術がどんな効果を生むのかを学びました。その反面、会員自身の訓練の場が少なかったことは反省点です。
- ② 各会合に多くのゲストをお招きし、ITC-Jを広く知っていただく機会となり、会員の入会につながった反面、高齢化により退会となる会員もあり、会員数の増加を実現する難しさを実感した一年でした。

カウンスルNo.8

会 長 山口久美子

- ① プログラムは全員参加型のワークショップを取り入れました。1.パネルディスカッション「未来の年表」を読んで—を行う前に全員が本を読んでから参加するように呼びかけたり2.ワークショップ—スマホを使って自己評価—では、スマホを操作して自分の話している様子を確認することで「百聞は一見にしかず」ということを認識したりすることができました。全員が参加することでクラブ、世代の垣根を越え、取り組めた経験は大きな成果がありました。
- ② 少人数クラブが多いが、だからこそお役をする回数が増えて会員自身の学びの成長にも繋がっています。

テーマ 持てる力を、社会に！～しなやかな知と心で～

2019年3月4日(月)13:30～15:45 於:京都ガーデンパレス ゲスト79名・会員193名 計272名の参加

プログラムリーダー 山口 久美子

第1部 基調講演

京都女子大学学長 林 忠行氏

「持てる力を社会に！」これは、「男性がもっと子育てに貢献すべきである」という側面を持っており、私達は発想の転換が必要である。多様な変化の時代の女性について、三つの視点より論旨を述べた。

1) グローバル化と男女共同参画

女性の時間外・休日労働・深夜業の規制が緩和され、女性の能力を十分に発揮することが可能となったが、家庭責任・特に育児責任を担っている女性にとって、正社員として働くことが非常に厳しくなった。

2) ICT(情報通信技術)の進化

テレワーク (ICTを活用した、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方)、テレビ会議も可能になり、子育てしながら女性が在宅で仕事を継続できる環境が整いつつある。同様に父親のワークスタイルも多様化し子育てへの参加も可能となる。だが、AI (人工知能) 技術の導入で、女性の仕事が奪われるかもしれないと心配されている。

3) 少子高齢化と女性

政府の「すべての女性が輝く社会」という掛け声のもと、女性の雇用の増加により、労働力人口に占める女性の割合は43.4%となった。しかしながら、男女間の賃金格差がある。女性の雇用はパートや派遣が多い。同一労働同一賃金が叫ばれるが難しい現状である。

第2部 パネルディスカッション

筒井氏 女性活躍推進法・働き方改革関連法の、スピード感ある実現が我が国の発展の鍵。

女性の労働力率 (15歳以上人口に占める労働力人口の割合) が高い国は、徐々に一人の女性が生涯に産む子どもの数も好転、フランスは2.01人まで回復させた。(日本は1.43人)。

泉氏 朗読指導で出会った方の中で、40代でスタートし、指導者となって70代を迎える方、また、70代でスタートし、86歳の今も朗読ボランティアを継続されている方を紹介。潜在能力を磨き、言の葉、言霊を大切にしていきたい、言葉一つで前向きになれる。

高山 話を切り出すとき、人を主語にせず、ものを主語にすると円滑なコミュニケーションとなる。また、聞き違い、勘違いという場面も多々あるので、意識して伝え、しっかり聴こう。

林氏 アメリカの大学では、コミュニケーション学科が存在しており、リーダーを養成するには、要となる学問である。地域の活性化に数々のボランティア等を通じて力を発揮していただきたい。若い世代の後押しとして、地域社会での子育て支援などに大いに期待する。

甘利コーディネーター このシンポジウムを通して、意識改革・コミュニケーションの重要性を再確認する機会を得たと思う。

《会場の声》

会場：「どこでどうしたら社会に貢献できるか」

林氏：「受け身ではなく、出歩いてみて観察すること、新聞、地域情報誌を見たりして、家族や地域が望んでいることをつかんでいただきたい。」

男性：「女性がトップリーダーになるには、主婦ならぬ主夫という選択肢もある。」

筒井氏：「世界が求めている社会は、働きたい人が働ける社会、夫婦ともに働ける社会だと思う。」

林氏：「男性の育児あるいは介護休暇制度などがあるが、世間の目がまだまだそれを受け入れていないように思う。社会全体の意識の改革が求められる。」

会場：「退職後の男性が、デイサービスで、入浴後の高齢者の髪を乾かすというボランティアをしている。企業戦士だった彼は、今、持てる力を社会に還元したい、自分も喜び、相手にも喜んでもらいたい。母親の髪を乾かすような感覚、嬉しそうな笑顔に支えられていると語った。今日のお話を聴いて是非とも紹介したい。」



コーディネーター
奈良新聞社代表取締役
甘利治夫氏

基調講演者
オブザーバー
京都女子大学学長
林 忠行氏

パネリスト
京都産業大学名誉教授
筒井清子氏

パネリスト
朗読劇団泉座座長
泉 浩子氏

パネリスト
ITC-J 次期会長
高山敦子

参加者の声

京都女子大学学長の林忠行氏の講演は、女子大学の学長としての視点から、これからの女性の社会進出の問題点、女子大の歴史、将来については非常に興味深く拝聴いたしました。続いてのパネルディスカッションでは、パネリストは、個性豊かな人物、参加者はコミュニケーション能力向上の為ご努力されている方々ですから時間の過ぎるのも忘れてしまい得る事の多い機会でした。シンポジウムに参加する機会をいただき、感謝申し上げます。

武田 晴代

「持てる力を、社会に！」のテーマに惹かれて参加しました。常々私は社会で活躍できてないと気にしていたからです。林先生のお話に聴き入りました。特に質疑応答では『若くない私達が社会で活躍するには？』の質問に「自分が社会で活躍しなくても娘さんやお孫さんが活躍できるように支えてあげればいいのです。」の先生の答えに気持ちが一扫されました。早速娘に出産などで中断している資格の勉強を再開するように奨めました。家事の負担が軽くなるように協力して勉強のしやすい環境を作ってあげたいと思っています。講演に参加させて頂き有意義でした。

野間 桂子

大学の同級生の高山敦子さんからのお誘いを受けて3月4日に京都でおこなわれたシンポジウム「持てる力を、社会に～しなやかな知と心で～」に参加しました。社会性のある林忠行氏の基調講演と3人の異業種のパネリストのお話はワクワク感と緊張感をミックスしたような気持ちになりました。ITC-Jの女性が生き生きと活動している姿に感動して自分も「言の葉クラブ」の会員になりました。シンポジウムのお蔭です。

カウンスル No.6 言の葉クラブ 中島 香代

シンポジウムを通して、様々なことが急速に変化し、ICTが進み情報技術がさらに高度になり、その活用法に改革や進化が求められていることを実感しました。だからこそ、現代において人と人とのコミュニケーションの重要性が叫ばれることも再認識いたしました。つまり、Face to Faceで目を見て話すこと、これが愈々重要視される時代でもあると言えるのではないのでしょうか。未開の社会では、挨拶をしなければ襲われても仕方がないと聞いたことがあります。言葉の使い方に配慮し、円滑で豊かなコミュニケーションを目指し、ITC-Jで訓練した持てる力を発揮して、しなやかな知と心で社会貢献の一助ができたと思います。

カウンスル No.7 米子クラブ 野津 寛美

基調講演の「持てる力を、社会に！」には、興味がありました。「～しなやかな知と心で～」女性の社会進出の現状をお話になれましたが、既に地域の活動は女性に頼られていると思います。持てる力は、家庭にでもあるとの見方は、うなずけるところもありました。ITC-Jに通じたキーワードは「コミュニケーション」でした。パネルディスカッションでは、ITC-J高山敦子次期会長の意見は面白くてすっきりしました。このシンポジウムが、会員を増やすことが目的だとしたら、子育てが終わった40.50代の方のお話を聴けるともっとよかったと思います。

カウンスル No.8 第二副会長 永井 眞澄



言の葉クラブ認証

「言の葉クラブ」

言の葉クラブ会長 巻野 政江

『言の葉クラブ』何という美しい響きでしょう。私達は希望に満ち溢れています。ITC-Jの未来を築き、継続していかなければならない『言の葉クラブ』。会員の豊かな個性を生かしつつ、真摯にそしてしなやかに挑んで参ります。テーマは『無限の可能性を拓く』です。言葉は霊妙な力を持っています。放つ側、受ける側、そうですコミュニケーションの神髄です。ITC-Jは凛とし、輝く多くの女性(男性も)で構成されている素晴らしい組織です。リーダーシップをとり、地域社会のソフト・ハード両面を、更に良い環境に構築できる力を会員の皆様はお持ちです。私達は相手の痛みに寄り添える優しい心をもって、『言の葉クラブ』での学びをそれぞれの人生に活かして参ります。



「言の葉クラブを迎えて」

カウンスルNo.6会長 西田 富美子

カウンスルの堅実な運営のためカウンスル役員会主導で1クラブを増設することを提案(2019年1月)しました。その後承認され、全クラブに協力を要請しました。2月に『言の葉クラブ』と名称を決定し、3月認証番号5001及びカウンスルNo.6へ配属通知書をITC-J役員会より受理し、お蔭様を持ちまして言の葉クラブを迎えました。

紀貫之の和歌に『やまとうたは人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける』とあります。

人はそれぞれの思いを音に託し言葉として発し人と人との繋がりを深めてきました。

言の葉クラブの存在が皆様ITC-Jのお育てをいただき成長できますよう願いますとともにカウンスルNo.6も一丸となり励んでまいります。



記念例会

「40周年を迎えて」

京都クラブ会長 吉田 浩子

京都クラブは1979年6月19日に日本で12番目のクラブとして認証されました。

記念例会についてはバズセッションを行い、どのような形で行うかを検討し、結果指定席を1テーブル他は抽選で座席設定とすることにしました。

2週間前に講師が急逝されたとの報告を受け、急遽プログラムを練り直しすることになりました。講師を畑正高氏に依頼し、講演『囃子方の祇園祭 鉦の上から』と決定しました。

クラブ一丸となって危機を乗り越えた思い出深い記念例会となりました。

ピンチをチャンスに変えた「京都クラブの底力」をみた気がしました。



「30周年を迎えて」

飛騨高山クラブ会長 内田 博子

飛騨高山クラブは、「令和」と元号が改まったこの5月に、「30期記念例会」を開催いたしました。当日は、大勢の皆様にご臨席いただき、心に残る晴れやかな記念例会となりました。一昨年から目標に向けて準備を進める過程では、会員相互の絆が増しました。30年の歴史を振り返ると、諸先輩がたの熱意と向上心、そして努力への感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしいITC-Jでの学びを次につないでいく決意を新たにいたしました。

「30周年を迎えて」

米子マンデークラブ会長 三保聖諭子

米子マンデークラブは今年の3月に30周年を迎えました。私達はITCの理念に基づき会員同士切磋琢磨し合って学び、何事にも一致団結してやってきましたが、これは偏に皆様の暖かい励ましやご指導のお蔭です。ありがとうございます。私達は30周年を一つの区切りとして新たに歩みを進めて行こうと思っています。これからも皆様にご指導を賜りながら会員同士の絆を大切に、コミュニケーションやリーダーシップを学んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



ウェブサイトの変遷

< ITC日本リージョン >

第15期	コンピューターシステム化特別委員会設置
第16期	1998.1.23 事務局にコンピューター設置。 導入ソフト：オフィス 97、会計ソフト、翻訳ソフト 会員の所有する NTT ホームページレンタルサービス利用権を使用する契約を結ぶ。 インターネットのプロバイダーは OCN。アドレスは現在とは違っていた。
第17期	「ITC 日本リージョン」ホームページ開設。 内容：「概要」「リージョンからのニュース」「世界大会からのニュース」 「日本リージョンの組織の図表」掲載
第18期	名簿は事務局のコンピューターに入力されている全会員の名簿を利用して、事務局とコンピューターシステム化委員会が協力して作成された。Eメールアドレスも掲載した。
第20期	「日本リージョン役員会だより」をホームページに掲載（コンピューターシステム特別委員会）
第21期	ホームページの管理（事務局出版部が兼務）
第23期	ホームページに「事務局だより」掲載。
第24期	名称をホームページからウェブサイトに変更した。
第25期	ウェブサイトを刷新 会員専用ページ 作成外注した（118,000 円）。
第26期	コンピューター管理費 41,225 円 サーバー 37,800 円
第27期	コンピューター管理費他 75,725 円 他にインターネット回線料あり
第28期	コンピューター部（事務局長兼務）管理費 0 円 サーバー他 57,472 円
第29期	サーバー他 51,324 円 2012.7 サーバーを変更
第30期	事務局コンピューター部 ウェブサイト検討特別委員会設置 コンピューター管理費 24,100 円 ウェブサイト刷新カウンスル・クラブがリージョンのサーバーを利用し、無料で独立したウェブサイトを開設することができるようにした。
第33期	コンピューター部（事務局長兼務）コンピューター管理費 8,209 円 その他 PC& 関連費用 114,694 円
第35期	ウェブサイト特別委員会設置コンピューター部（事務局長兼務） ITC 国際が解散した。
第36期	前期会則修正案の可決により、事務局コンピューター部は廃止になり、ウェブサイト特別委員会 が設置された。 2018.2.1 ITC-J 新会則採択により、ウェブサイト委員会は常任委員会となった。
第37期	ウェブサイト委員会は役員会の要請により、ITC 日本リージョン第1期より ITC-J までの会報誌 及び大会冊子の全内容をウェブサイトに掲載した。その他、ウェブサイトの各項を刷新しスマ ートフォンにも対応した。

<附記>現在のアドレスは <http://www.itcjr.jp/>

※ ITC 日本リージョンのウェブサイト（ホームページ）立ち上げ決定（1998～）以降、現在まで一会員が維持・管理に寄与している現状である。以上

参考資料：ウェブサイト掲載会報誌、各種沿革史
文責・編纂：編集

大会冊子バックナンバー



会報バックナンバー



事務局設立と業務の変遷を振り返って

ITC-J 第 37 期役員会は、旧 ITC 国際の解散と前期末事務局の賃借をやめたことに伴い、事務局業務についてのいろいろな取り組みをいたしました。期末にあたり事務局設立と現在に至るまでの事務局業務の変遷を振り返りました。

< ITC日本リージョン事務局 >

第 2 期	長期目標：事務局の設立
第 3 期	翻訳委員会・出版委員会により議事法マニュアル・評価マニュアルが印刷された。
第 4 期	特別委員会：ITC 特別会計設置（各クラブ、カウンスルより ITC 本部への送金に関し、簡略かつ経済的観点から、すべてを日本リージョンで一括送金するための特別委員会）
第 5 期	33クラブ 970名 日本リージョン事務局設立特別委員会を設置・始動。
第 6 期	長期目標：日本事務局の設置・資料・翻訳・通信などの仕事を執り行う。 ・今まで資料役員の管理下にあったすべての教育資料及び物品を服部印刷株式会社に委託する。 ・翻訳も逐次事務局管理下で進めていくことを検討。 1988.8.1 日本リージョン暫定事務局発足一初代事務局長 新木昌子 (資料・翻訳・出版・特別会計を関係役員・委員長が代行)
第 7 期	1988.11.16 日本リージョン暫定事務局事務所を名古屋にオープン (一会員の好意によりマンションの一室を借用) 日本リージョン事務局基金を募集する。 業務：教育資料やマガジンの翻訳、翻訳された教育資料の出版、資料の管理・販売、新入会員の諸手続き・送金など、本部への年会費と物品注文の送金と手続き
第 8 期	日本事務局業務開始 米国の銀行に日本リージョン名義の口座を開く。
第 10 期	66クラブ 1595名 主な業務：教育資料の翻訳・出版・販売、ITC 本部への各種送金、リージョンメールの郵送 事業計画：マスターマニュアルの完成、新しく翻訳する教育資料とコミュニケーター・ITC オールクラブメールなどの翻訳
第 11 期	日本リージョン事務局は事務員 1 名を雇用し、体制の確立と事務処理の合理化を図った。(後期に雇用。週 2 回午前中のみ)
第 12 期	翻訳・出版の外部発注資料の申し込みと支払い方法の変更、ファクシミリ設置
第 16 期	事務局事務所を名古屋市内で移転した。 事務員が交代した。
第 17 期	新事務局に OA 機器を設置。ホームページ開設。クラブ数 80 会員数 1900 名余 ・資料に関する事務処理の会計ソフトと在庫ソフト（会員提供）導入 ・各種会則最新版（ホームページ掲載） ・リージョンメール：書記指導監督のもと 8 名で発送作業を行う。
第 18 期	マスターマニュアル刷新 ・コンピューターシステム化委員会の尽力により会員名簿が初めてパソコンで作成された。 ・役職ピンをリージョン資料で取り扱うことになった。(これまでは本部から購入)
第 20 期	83クラブ 1759名 パソコン新規購入。リージョンメールを E メールにて配信事務局経理決算書がなくなり、事務局決算書のみになった。
第 21 期	事務局が名古屋から大阪に移転した。 事務員が交代した。今までの業務に加えてホームページの管理、資料の保管の IT 化を行う。ITC 本部が財政困難となる。(会報誌 Vol21.No.1 に掲載)

第 22 期	ITC 本部がアメリカからニュージーランドへ移転、IMS となる。郵便局からの送金ができなくなる。送金料が高額のため、事務局で ITC 本部へ一括送金することとなった。From the Boardroom の翻訳をウェブサイトに掲載した。
第 23 期	事務局コンピューター部設置
第 29 期	事務局を大阪から芦屋に移転した。 事務局業務を刷新。 リージョンメールは項目のみを配信し、内容はウェブサイトに掲載。 国際からの配信項目は英語で必要かつ要望のある項目は翻訳して掲載。
第 30 期	81クラブ 1301名
第 31 期	資料と出版を兼務とした。
第 32 期	2013.8.1IMS がニュージーランドからアメリカに移転。
第 33 期	事務局長がコンピューター部長を兼務。
第 35 期	業務： 事務局長—事務局全体の管理、IMS との連絡、新入会員の国際への手続き、役職ピンやコンテストピンの注文、期末の ITC 会費報告 資料・出版部—物品の注文受付、在庫確認、追加注文、会員名簿のチェック作成、リージョン大会時の物品販売、各カウンスル資料部員との連絡 経理部—国際へ送金する経理の管理及び支払い（新入会員、期末の国際会費）、事務局運営管理に関する経理、新入会員へカード・バッジ・書類を送付 コンピューター部—事務局長兼務。リージョン会長及びウェブサイト委員長と連絡をとりウェブにアップする内容を伝える。 物品販売—事務員が週 1 回出勤していたが、月 1 回になった。事務局では個人の受付はしない。カウンスル会合のみの販売とする。 年度末の Annual Statement と会員名簿—期末に提出の Annual Statement はカウンスル毎にチェックして事務局へ送信する。
	< ITC 国際が解散 >
第 36 期	コンピューター部はなくなり、事務局長・資料・物品部と経理部となる。 ・前期に収集された名簿のデータを印刷、注文数発送、集金を行った。 ・新入会員のメンバーカードを作成し、郵送した。 ITC 時代に使用した会員ピン、役職ピン、ウイナーピン、表彰状、封筒などは販売することができず、ITC マーク入りの教育資料はウェブサイトに掲載することも不可能になった。 <新組織の名称が ITC-J (略称) と決定> 2018.1.1 より ・会員ピン、賞状、封筒、ロゴシールの 4 種を作成・販売した。 ・国際関連の手続き、送金などの業務はすべてなくなった。 ・期末に賃貸の事務所を解約し、事務員は退職した。 ・永久保存記録や、教育資料、引継ぎ物品などを会長指定の倉庫会社に荷造りし、発送した。
第 37 期	期末 64クラブ 939名 事務局の任命は事務局長のみ。 ・名簿代金の集金を行った。 ・多目的フォーム、新入会員、送金通知書の情報を ITC-J 会計と同時に受信した。 ※役員会は、名簿代金など会費以外の支払いはクラブの代金をカウンスルでまとめて ITC-J 会計に送金することを決定した。

<附記> ※事務局に保管されていた永久保存記録他は、現在、玉野市の倉庫会社に保管されている。以上

参考資料：ウェブサイト掲載会報誌、各種沿革史
文責・編集：編集

第37期 ITC-J教育資料一覧表

◆ クラブ運営		
1	記念会合の手順	認証状授与式や周年記念会合の式典の手順および準備と注意点
2	役員就任式のシナリオ	役員就任式を司るインストーリングオフィサーの手順とシナリオ
◆ プログラム		
1	潜在能力の開発 (日・英)	自分の潜在能力を確認し、仕事や課題を遂行できるための能力開発の手法
2	上手な聴き方	聞き方を向上させる方法やゲーム等、聞き上手のポイントが網羅されている
3	刺激に富んだ会話術	人間同士をつなぐ絆のような役目をする会話の技術と心得について
4	ファシリテーター	ファシリテーターの心得及び合意形成に導くまでの手順とスキルについて
5	図にしてスピーチをつくるワークショップ	考えやアイデアの単語を書き、関係のある単語を図にしてスピーチを考える
6	言葉でつなぐ即興スピーチ (日・英)	カードに書かれている言葉を使って数人でストーリーを即興で創作することで、「思考の瞬発力」「発想の展開力」「コミュニケーション力」を鍛える
◆ 準備のいらぬワークショップ		
1	チャプリンスピーチ (日・英)	即応力を目的に1分の即興スピーチをした人が、次のスピーカーとテーマを決める。
2	回転寿司 (日・英)	会話に慣れるため、2列になって一斉に対面式スピーチを行い、終わったら席をずらして新しいパートナーと同じ活動をする。
3	インプロ	即応力を目的とした活動で、あるテーマについて対話した後行う即興演劇 (無言劇と有言劇)
4	素朴なコロンブス (日・英)	日常の小さな発見を語りあうことで心豊かになり、多様性を知る
5	自己紹介 - 4つの扉 (日・英)	記入シートに名前とアピールしたい4つの単語を書いて自己紹介
6	スマホを使って自己評価 (日・英)	自身の動画を見て自己評価し、自ら改善点に気づき次の発表を良くする
7	あいうえお自己紹介 (日) Alphabet 自己紹介 (英)	氏名を全て「ひらがな」にし一文字ずつ語句の頭文字に使用して自己紹介。イニシャルと同じ Alphabet から始まる形容詞を使って自己紹介
8	ユーモア人生相談室 (日・英)	悩み人の相談を受け、元気と勇気を与える解決策を考え回答する人生相談室
◆ 実践のヒントシリーズ		
1	司会者 (日・英)	スピーカーの紹介と感謝の言葉
2	パワーポイントの作成と発表	スライド作成前の準備、作成のコツ、発表当日の注意点
3	発表に役立つメモの作り方 (日・英)	スピーチのための見やすいメモをつくる注意点と、練習する時のコツ

◇ウェブサイトに掲載されている教育資料の一覧表です。ご活用ください。

第37期教育資料委員会

ITC-J 第37期 会計補正予算書

The 37th ITC-J Financial Budget 2018.8.1~2019.7.31

収入の部 Revenues

(単位:円)

科目 Subject	期首予算額	補正予算額	増減(対期首予算額)	備考 Remarks
前期繰越金 Balance Brought Forward	2,054,228	2,054,228	0	
年会費 Dues	4,565,000	4,565,000	0	5,000円×913名
新入会員 New Members	100,000	100,000	0	月割会費
資料・物品売上 Sales of Materials and Supplies	600,000	600,000	0	名簿、物品他売上
受取利息・雑収入 Interest & Miscellaneous Income	1,000	1,000	0	
合計 Total	7,320,228	7,320,228	0	

支出の部 Expenditures

科目 Subject	期首予算額	補正予算額	増減(対期首予算額)	備考 Remarks
会報印刷費・送料 Bulletin Printing & Postages	1,200,000	1,200,000	0	3回発行
年次大会補助金 Conference Subsidy	2,000,000	2,000,000	0	
事務局運営費 Office Operation Expenses	10,000	10,000	0	
交通費 Transportation				
選出・任命役員 Elected and Appointed Officers	800,000	800,000	0	役員会(旅費-2,000円)×50% 公務100%
委員会補助 Committee Members Subsidy	900,000	900,000	0	(旅費-2,000円)×50% カウンスル会長会を含む
役員活動費 Officers' Activity Expenses				
会長 President	10,000	10,000	0	
次期会長 President-Elect	10,000	10,000	0	
第一副会長 1st Vice President	10,000	10,000	0	
第二副会長 2nd Vice President	10,000	10,000	0	
書記 Secretary	10,000	10,000	0	
会計 Treasurer	10,000	10,000	0	
JCLO Communication Liaison Officer	5,000	5,000	0	
議会法規役員 Parliamentarian	10,000	10,000	0	
編集者 Editor	30,000	30,000	0	
事務局長 Office Manager	10,000	10,000	0	
公式訪問費 The traveling expenses for official visitors	60,000	60,000	0	会合登録費、公式訪問宿泊費
役員会・会長会会場費 Meeting Room Expenses	50,000	50,000	0	
指名委員会費 Nominating Committee	3,000	3,000	0	
常任委員会活動費 Standing Committee Expenses				
会計監査 Audit	2,000	2,000	0	
予算・財務 Budget & Finance	2,000	2,000	0	
会則・決議 Bylaws & Resolutions	10,000	10,000	0	
大会準備 Conference Planning	250,000	250,000	0	
選挙 Election	5,000	5,000	0	
国際交流 International Relations	10,000	10,000	0	
会員 Membership	200,000	240,000	40,000	新クラブ用諸経費(バナー代等) 40,000円増額
プログラム・教育 Program & Education	120,000	120,000	0	
スピーチコンテスト Speech Contest	40,000	40,000	0	
教育資料 Education Features and Material	20,000	50,000	30,000	教育資料英訳費30,000円増額
ウェブサイト Website	10,000	10,000	0	
特別委員会活動費 Special Committee Expenses				
派遣員資格確認 Credentials	4,000	4,000	0	
マニュアル検討 Consideration of a Manual	10,000	10,000	0	
監修 Editorial Supervision	1,000	1,000	0	
資料・物品費 Materials and Supplies	660,000	660,000	0	印刷、仕入れ、送料他
慶弔費 Greetings & Condolences	10,000	10,000	0	慶弔に関する事務用品及び送料
接待費 Hospitality	5,000	5,000	0	
役員就任式費 Installation of Officers	20,000	20,000	0	
CMT経費 CMT Cost	5,000	5,000	0	
雑費 Miscellaneous Expenses	100,000	100,000	0	送金料等
小計 Sub Total	6,622,000	6,692,000	70,000	
予備費 Reserve Fund	698,228	628,228	△70,000	
合計 Total	7,320,228	7,320,228	0	

2019年2月27日

予算・財務委員会 山内昌子 井田育代

伊庭文子様を偲んで

(阪神クラブチャーターメンバー・ITC日本リージョン第12期会長)

令和元年6月11日、穏やかに97歳の生涯を閉じられました。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

京都仁和寺の傍の閑静なご自宅で、ご家族の手厚いお世話をお受けになりながら、老後の日々をお過ごしでした。

阪神クラブにとっても、私にとっても大黒柱を失ったような、心にぽっかりと穴が空いたような深い悲しみに包まれました。

先日のITC-J年次大会でも多くの方々から弔意のおことばを受け、伊庭様が皆様から信頼され、愛されていたご人徳の高さを感じました。

岡山の黒住家と伊庭様のご尽力で設立されたのが岡山クラブでした。

クラブ例会がバイリンガルだった頃、文学的素養に優れられた伊庭様の豊富な語彙、表現力の流暢な日本語は、通訳泣かせだったこと。沢山の話材や知識をお持ちでスピーチはいつも時間をはみ出したこと。今では、微笑ましく懐かしい思い出となりました。シャンソンの心に沁みのお声は今も私の耳に残っています。

「100万本の真赤なバラ」をご霊前にお捧げいたします。さようなら

阪神クラブ 三宮 晶子

村田夏子様を偲んで

2015年9月例会導入式の彼女の自己紹介はとても印象的でした。エレガントで淡い色彩のワンピースを着た彼女は満面に笑みをたたえ、「英語が大好きでよく海外で滞在しますの。…」と楽しく話し始められました。彼女は英語落語も大好きで、「私の仲間の会合で小噺『美術館』を披露しましたら、とても受けましたのよ」と嬉しそうに報告されていました。欠席されがちなので、電話連絡をしていたのですが、(パソコンを使用されないので)途中から「出席する時は、こちらから連絡しますので、連絡は結構です」と云われたそうです。そろそろ私から連絡してみようと思っていました矢先に、彼女の訃報を知りました。家族葬だったらしく、クラブには報告されませんでした。彼女は風のように現れ、風のように去って行かれました。風のように爽やかだった彼女のことは、私達の心にいつまでも残り続けることと思います。合掌

バイリンガル西条クラブ会長 乙野 靖子

ITC-J ウェブサイト会員ログイン方法



① <http://www.itcjr.jp/> クリック！ ② 会員専用ページ ログイン

ユーザーID 会員番号 **パスワード** 会員の姓のローマ字小文字 (例 nihon)

*ID番号がわからない会員はクラブ会計にお尋ねください。

編集後記

☆今期テーマ「継承と創造」のもと、私は役員会の一人として種々の改革・変革に取り組まれた役員会の活動を目の当たりに致しました。これらを貴重な歴史の記録として会報誌に残すべく使命感を持って取り組んでまいりました。また、ITC-Jには、8カウンスル及び所属する64クラブの指導が委ねられています。役員会がこの使命をも全うする責任も持ち合わせていることにも焦点を当てました。毎号の編纂作業は、あたかも心を込めて繭を紡ぐような思いで日々を過ごしました。

良い経験と心を通い合わせたスタッフとの出会いは、私にとりまして掌中の宝物となりました。

ITC-J第37期の会報誌は皆様にどのように映りましたでしょうか。お声が頂けましたら幸甚に存じます。

最後になりましたが、快く原稿をお寄せくださった皆様、お読み頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

有難うございました。

(秦野順子)

☆今期、編集スタッフの一人として、新生2年目のITC-Jの力強い息吹をつぶさに感じる事ができた幸せな一年でした。会報誌が完成するまでの過程は、正に今まで学んできたコミュニケーション技術(話す・聞く・書く・伝えるなど)の総結集でもありました。良い経験をお与え頂きました事、また有能で多才な方々との出会いに感謝致します。

(住田実寧子)

☆編集という新たな経験を積むことにより、多くの先輩スタッフの皆様との出会いを通して、ITC-Jをより深く知ることが出来ました。また原稿依頼の折には、ことのほかコミュニケーションの大切さを学びました。回を重ねるごとに、胸はときめき、夢のような一年を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

(廣田花江)

☆編集をすることで、ITC-Jを深く知ることができとても勉強になりました。そして、会報誌の存在の意味も識ることができました。

編集者、スタッフの皆様にご引張っていただき、完成した会報誌を見たときは、とても感動いたしました。

会員の皆様、ご協力をいただき有難うございました。

(藤山由起子)

ITC-J 宣誓

ITC-J Pledge

我々、インタラクティブトレーニング イン コミュニケーション-ジャパンのメンバーは、世界中の相互理解促進のために、コミュニケーション技術と指導力の向上に努めることをここに誓います。

We, as members of Interactive Training in Communication-Japan, hereby pledge to improve our communication and leadership skills, in order to achieve greater understanding throughout the world.

ITC-J 声明文

Mission Statement of ITC-J

ITC-J の使命は、ITC-J の目的とするコミュニケーション技術と組織運営の技術を習得する機会を会員に提供してリーダーシップをそなえた成熟した社会人を養成し社会に貢献することにある。

The mission of ITC-J is to present the members opportunities for quality training in communication and leadership skills which are the purposes of Interactive Training in Communication-Japan and benefit the society by providing mature individuals.